

1、ディレクトフォー

私は今回の仙台二高東大見学会 企業・大学訪問を通して初めて、笹川平和記念財団や日本財団、IEA の存在を知りました。そのため、笹川平和記念財団や日本財団、IEA の方々のお話はとても新鮮で、興味深いものでした。

1 番最初に聞いた IEA の理事長である田中伸男さんのお話からは、「具体的に、アイエスが直接原油などに、どのような影響を与えるのか」や、「日本が直面しているエネルギー問題」について自分で調べた時よりも詳しく知ることができました。

田中伸男さんのお話の後には笹川平和記念財団や日本財団の方々とのディスカッションでしたが、トップクラスの大学を出た、すごい経歴の方ばかりで、自分には理解できないような難しい話ばかりだと思っていました。しかし、実際に話してみると、とても気さくな方ばかりで話しやすく、お話はとても理解しやすいくのでとてもためになるお話ばかりでした。ディスカッションを通して、これからのグローバル社会では、どのようなことがたいせつになってくるのかが分かり、英語の重要性を再確認できました。また、高校時代に身につくスキルについては、部活が大事であり、そこで身につけた団結力やコミュニケーション能力が近い将来社会で役に立つ大事なスキルであることが分かりました。やはり、高校時代で大事なのは勉強だけではないのだな、と思いました。但木さんと村上さんとディスカッションをした際には、高校生のうちにたくさん本を読み、楽しいと思うことをいろいろな行事を通して見つけ、言語、異文化との交流をし、視野を広げることがたいせつだと教えていただきました。

また、田部さんからは、慣れない海外で生活をする上で健康な体が大事であると教えていただきました。日高さんと富永さんとのディスカッションでは、「異なる文化の人々と、どう分かり合うのか」という質問では分かり合えていないと思うことと分かり合えたと思うことの繰り返しだと聞き、無理に分かり合おうとしなくてもいいんだと思い安心しました。特に、刺激的だったのは長崎さんとのディスカッションでした。私はどこの大学を志望するか悩んでいたのですが、なぜ東北大学を受験したのか聞いてみると、とても衝撃的な答えが返ってきました。その答えとは、「塀がないから受験した」というものでした。確かに、東京大学は塀で囲まれており、周りとは隔絶された近寄りたがたい雰囲気を放っていました。それに対し、東北大学、特に、青葉山キャンパスは全くと言っていいほど塀がありません。私も中学生の頃は、東北大学の中を歩いて登校していました。ですが、「塀がないから」という理由にはとても驚きました。驚きましたが、こんな単純な理由でもいいんだ、と気づけた瞬間でした。

2、東京大学見学

東京大学を初めて訪れて思ったことは、とても広く、緑が多いということです。東北大学の片平キャンパスを彷彿とさせる景観に驚き、本当にここは東京なのかと思いました。建物は長い歴史を物語るようなレトロな造りのものばかりでした。特に工学部の建築科の建物は柱や扉が細かくデザインされており、外国にいるような気分でした。今回、直前で予定が変わったため、説

明会には参加できませんでしたが、後で友達にどんな内容だったのか聞くと、アトムの話をして、東京大学でもこんな話をするんだ、と思わず驚き、とてもおもしろいとおもいました。

マッハ5で飛んでいるアトムにはショックウェーブがはたらいており、1500℃にもなるというものです。また、アトムの表情の豊かさは現代科学では再現できないそうです。私は、工学部を目指していて、ロボット系ではありませんが、材料系に進もうかな、と思っているので、1500℃以上に耐えられるとても軽くて柔軟性のある素材を開発し、アトムの実現に寄与したいと思いました。また、説明会が行われた会場にはロウソクののったシャンデリアのようなものがあり、とても素敵な雰囲気だったようで、私も行ってみたいかなと思いました。工学部は東京大学の中で1番女子が少ないと聞きました。こんなに素敵でなのにどうして女子が少ないのか疑問に思いました。私も工学女子になりたいと今より強く思いました。

3、OB・OGの方々と懇親会

OB・OGとの懇親会は刺激がとても強く、衝撃的でした。1番衝撃的だったのは「一度も授業で寝たことがないんです。なぜかって、寝るような授業を受けてないからです。」というものでした。彼女が天才肌なのは分かりますが、二高にはこういう人がたくさんいるんだな、と思い知らされた気分でした。より一層勉強に励まなければいけないな、と思いました。

OB・OGの方々が各テーブルに来る話し合いでは、物理と生物のどちらをとったほうが良いのか聞き、全員、「物理」と答えたので物理を選択する意思がようやく固まりました。おどろいたことに、朝型、夜型はあまり学力に関係ないということです。朝型と夜型のOB・OGの方々は半々くらいで、無理して早起しなくてもいいんだ、と思い安心しました。勉強方法は、皆さんバラバラだったので参考にしつつ、いろんな方法を試して自分にあった勉強方法を見つけ、高1のうちに自分の勉強スタイルを確立させたいと思います。

また、ここでも英語の重要性が話題に上がってきました。最近、海外の方が日本に観光してきているので、そこで恥をかかないようにしっかりと今のうちから勉強し、世界を広げていったほうが将来役に立つということでした。勉強の悩みが解決し、これからすべきことが具体的にわかり、とても有意義な時間を過ごせました。

4、外務省訪問

今回、私が理系なのにも関わらず、外務省を選んだのは文系の仕事も見てみたいと思ったことと、小さい頃から外交官に憧れていたという2つの理由があるからです。

今回対応してくれた先輩は一期生の方で東大出のエリートの方でした。女性なのに、数ある官庁の中でも、東大の首席ですら難しいと言われる財務省、警察庁、経済産業省、総務省に次いで難しい外務省で働いているということはとてもすごいことだと思いました。特に、外務省ではズバ抜けた語学力が必要とされており、二高の先輩方は本当にすごい方ばかりなんだな、と思いました。特に、最近では過激化するテロ組織といった問題が山積みな中で、私たちのために時間を割いてくださり、お話を1つ1つが、とてもありがたいものでした。

1番気になったのは、外務省には語学だけでなく、アジアやアフリカなどの地域の経済や軍事

問題に精通する、「専門官」がいることです。今まで、外務省は外交官だけで構成されていると思っていましたが、このような日の当たらないところでも、日本の外交の重要な部分を担っている方々がいることに驚きました。普段、何気なく、海外に旅行に行くときでも私たち邦人の安全はたくさんの外交官、専門官の方々によって保障されていると思うと、とても素晴らしい職業だと思いました。

今回の仙台二高東大見学会 企業・大学訪問を通して、この社会について、たくさんのことを学びました。東京大学では多くの外国の方を見かけました。もしかしたら、私たちの大学受験はもう、日本ではなく、世界と戦うものなのではないかと思いました。これから、猛勉強に励み、今回学んだことを社会で生かしていきたいです。